

わが街 Watching



▲教室の様子を動画に収めるジリーさん(中央)とナオミさん(左)

市保健センターの健康増進事業に注目

フランスの視察団がトランポリン教室を訪問

10月22日、西平松公民館で開かれたトランポリン教室に、フランスからの視察団が訪れました。本市は、高齢者の健康づくりと介護予防の推進のため、平成28年度からケアトランポリンを導入し、地区公民館で教室を実施しています。現在、高齢化による社会システムの綻びが問題視され、介護予防への関心が高まっているフランス。視察団長のジリー・フォンディンさんが動画サイトを通じて市のケアトランポリン事業を知ったことが今回の訪問に繋がりました。視察団員のナオミ・フォンディンさんは「みんな笑顔で元気に運動しており、素晴らしいと思った。是非フランスで紹介したい」と笑顔で語りました。

子どもたちに暴力のない明るい未来を

田川地区暴力団等追放総決起大会

11月14日、福智町地域交流センターで「田川地区暴力団等追放総決起大会」が開催され約350人が参加しました。これは、田川地区の市町村、福岡県警察、地域住民などが暴力団の排除を宣言する決起大会。この日は、たがわ魅力向上大使で元貴乃花親方の花田光司さんが来賓として登壇し「暴力のないまちづくりや青少年の育成に取り組みたい」とあいさつ。続く講演では、福岡県暴力団追放運動推進センターの敷正孝専務理事が「暴力団の排除には、学校での教育や離脱者の支援などの地道な取り組みが必要」と訴えました。最後に全員で「暴力団を利用しない、恐れない、金を出さない、交際しない」とシュプレヒコールを上げました。



▲突き上げた拳に「暴力団排除」を誓います

約100個のランタンが後藤寺商店街を飾る

ドイツの伝統行事「Sankt Martin」

11月10日、後藤寺商店街サンシャイン通りで「Sankt Martin」が催され、後藤寺小学校5・6年生が制作したランタンが展示されました。

この催しは、ドイツの伝統行事を知ってもらおうと、市国際交流員と後藤寺商店街などが協力して開催しています。会場では、グリューワインやビールなどドイツ名物の販売のほか、缶の山にボールを当てて落とすドイツ由来のゲームなどさまざまなイベントが催されました。ランタンのコンテストで本町1丁目商店街会長賞を受賞した益田麻裕佳さん(後藤寺小学校5年)は「作品テーマは「ファンタジー」で、オリジナルの花などを描きました」とにっこり。



▲キャラクターや国旗などをあしらった多彩なランタン

無数に走る未来へのレール

高校生の夢を乗せ「就活列車」が出発

10月23日、平成筑豊鉄道の田川伊田一直方間で、高校生に沿線企業を紹介する「就活列車」が運行されました。

これは、就職意欲の向上や地域の活性化を図る取り組みで、田川科学技術高等学校、東鷹高等学校、西田川高等学校、福智高等学校から1・2年生約50人が参加しました。二場公人市長は「就職は人生の大切な節目。じっくりと考えて進路を定めてほしい」とエールを送り、生徒が乗った列車を見送りました。車内では、本市や福智町などの製造業や福祉施設など19社のパンフレットが配布され、そのうち5社が、企業概要や仕事内容を説明。生徒たちは真剣な眼差しで説明を聞き、必要な資格やスキルなどを企業に質問しました。



▲地元企業の話聞きながら沿線の風景を楽しみました



WATARIDORI
～渡り鳥～

ドイツからやってきた国際交流員(CIR)のアネマリー・グンツェルさんが、ドイツの文化や田川での生活などを紹介します。

●アネマリーさんのブログ公開中!
<https://tagawacir.wordpress.com/>

スマホ、携帯電話は
こちらから
QRコード→



ドイツのカーネヴァルの人気料理: ベルリーナー

ドイツの「カーネヴァル(謝肉祭)」は、キリスト教の復活祭の40日前に盛り上がりを迎えます。ドイツ語で「Fasching」とも呼ばれ、毎年2月または3月に催される歴史のある祭りです。この祭りでは、仮装した人がパレードを行い、朝まで歌ったり飲んだり踊ったりして、楽しい時間を過ごします。また、カーネヴァルでは、甘くておいしい伝統的なスイーツが有名です。それは「Berliner Pfannkuchen」略して「Berliner」とも呼ばれるジャム入りの丸い揚げパン。中のジャムの味は梅や苺などですが、そのほかに「アドヴォカート」というクリーム状のリキュールが入っているものもあります。カ

ーネヴァルは「いたずらの季節」とも言われているため、ベルリーナーを使ったいたずらが大人気。たくさんあるベルリーナーのうち1つにマスタードを入れたものを忍ばせ、それを食べてしまった友人の反応を見て楽しめます。みんなを笑顔にする甘くて素敵なスイーツです。



今日の言葉
Karneval
(謝肉祭)

人権コラム: Vol.3

●問い合わせ
人権・同和対策課 ☎85-7133

合理的配慮

高齢者や障害者など一人ひとりの「個人」の状況に応じた支援

バリアフリー

今の社会の中から「高齢者や障害者」の障壁になるものをなくす

ユニバーサルデザイン

「誰もが」利用しやすくデザインして社会をつくる

共生社会は、みんなで作るもの

最近よく話題になる「ユニバーサルデザイン」や「バリアフリー」「合理的配慮」という言葉。この「3つの考え方」は、左図のように3層構造で連携し、障害の有無や国籍などあらゆる違いに関係なく誰もが暮らしやすい共生社会を支えています。特にバリアフリーや合理的配慮は心のあり方が大切。心にある壁(バリア)を越えて相手が必要とするサポートを理解することが求められます。本市は、すべての人が人間らしく幸せに生きる「人権のまち」の実現、そして、パラリンピック出場選手を迎える2020年を機に田川を「福祉のまち」に変える共生社会ホストタウンとしての取り組みを進めます。共生社会の実現は行政としての大きな課題。しかし、みなさん一人ひとりに「3つの考え方」が浸透し、社会のさまざまな場面でお互いの違いや権利が尊重されなければ、真の共生社会は実現できないのです。